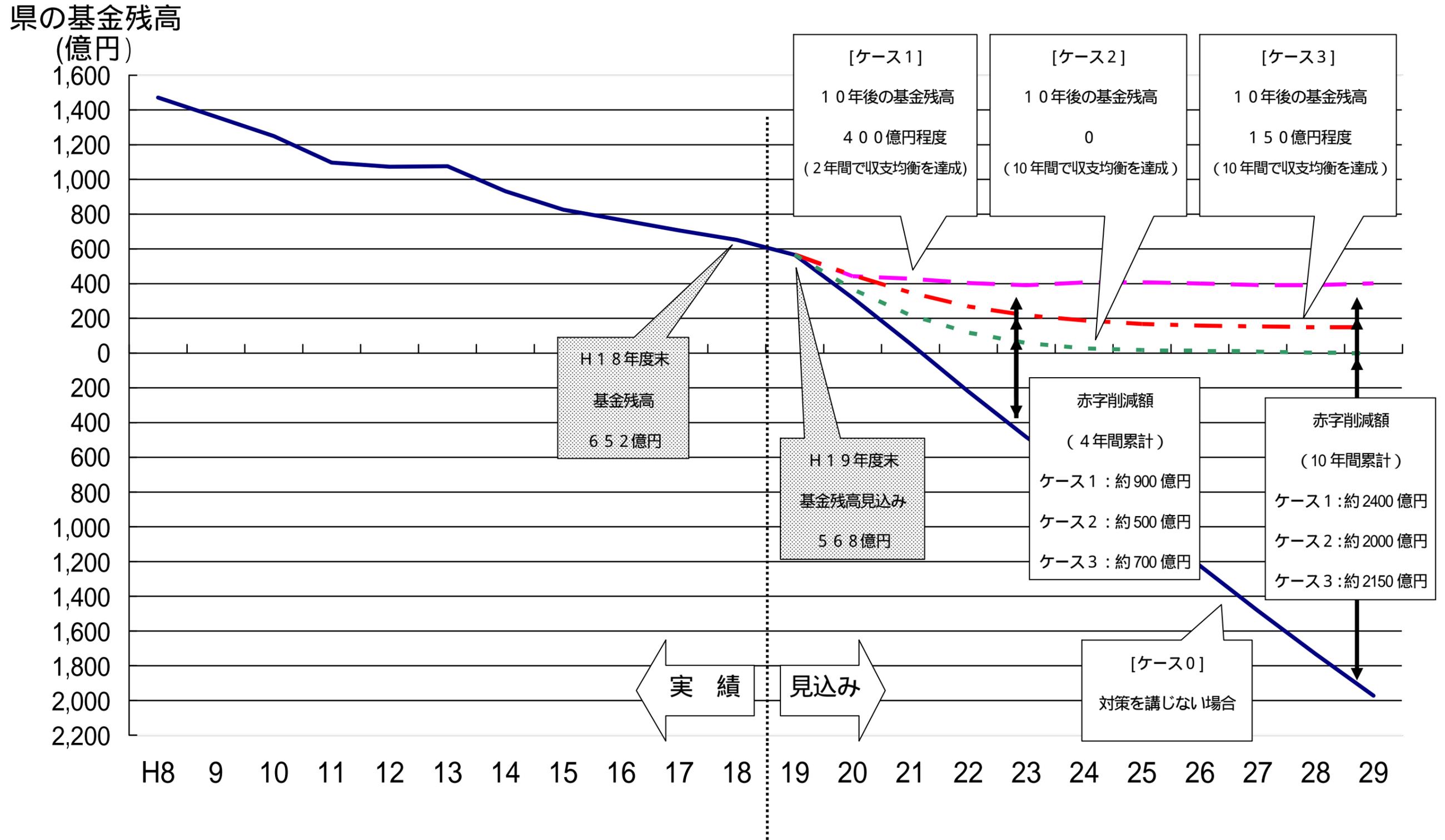


# 改革の進め方のイメージ



- [ケース0] 今後特段の対策を講じない場合、H22年度には基金が枯渇。
- [ケース1] 2年間で収支均衡を達成しようとする、基金は400億円程度残る。しかし、急激に収支均衡を図ろうとすることは県民生活への影響から困難。
- [ケース2] 比較的多くの基金取り崩しを行い、徐々に赤字を削減し、10年後の収支均衡時点で基金を使い切る。しかし、基金残高0では、安定的な財政運営が困難。
- [ケース3] 県民生活への影響を考慮しつつ、一定程度の規模の基金残高を確保するため、[ケース1]と[ケース2]の間のペースで改革を進めていくことが必要。

